

政府出展基本計画（素案）

2023年1月
農林水産省・国土交通省

■ 基本計画の構成について

- 来年度以降、政府出展の設計等を検討するうえで踏まえるべき、政府出展の意義やテーマ、出展内容等の**基本的な方向性**についてとりまとめるものとする。
- **管理運営、行催事、広報・レガシー**については、**来年度以降に実施計画等を策定することとする。**

I はじめに

- ・ 本基本計画の性格、2027年国際園芸博覧会開催の意義・概要

II 政府出展の意義・理念・テーマ

III 空間計画

- ・ 空間構成、建築手法、施設配置と動線、必要施設と機能、ユニバーサルデザイン、サステイナブルな資源利用

IV 展示計画

- ・ 展示フローについての考え方、演出方法・演出技術についての考え方

V 管理運営計画

- ・ 展示用植物の供給管理、展示施設・栽培管理施設について、インクルーシブ、多言語対応、環境配慮、安全性配慮

VI 行催事計画

VII 広報計画及びレガシー計画

- ・ 会期前からの機運醸成、子供や教育機関との共創、デジタルを活用したコミュニケーション、会期後のレガシー

VIII 今後の検討課題と進め方

- ・ 次年度以降の推進スケジュール、推進体制

■ 管理運営計画のポイント

- 政府出展は本博覧会の中核を担う出展のひとつとして、その役割や出展のねらいにふさわしい水準を保持し、来場者が安全かつ快適な環境の中で観覧、体験できる円滑かつ効率的な運営計画を検討する。

(1) 展示用植物、作物の供給、育成、管理について

- 全期間を通じ常に花と緑を高い水準で良好な状態に維持するため、必要な体制と計画を検討

(2) 展示施設、栽培管理施設について

- 会期前から会期中に渡り緻密に育成・管理ができるよう、植栽環境を的確に維持管理できる施設を計画

(3) 順応的な管理運営

- 当初の計画で想定しえない事態にも対応できるよう、モニタリングとフィードバックを行う管理運営を検討

(4) インクルーシブ

- 多種多様な人々が積極的に安心して参加できるインクルーシブを考慮した運営を計画

(5) 多言語対応

- デジタルデバイスの活用、多言語対応スタッフ配置等により多様な言語ニーズに対応を検討

(6) 環境配慮への対応

- 計画段階から省資源や省エネルギー等、環境負荷の削減に配慮して検討

(7) 安全への配慮

- 来館者の安全を最優先とし、感染症対策、暑熱対策等を含めた計画を検討

■ 行催事計画のポイント

- 政府出展における行催事は、動的な展示と捉え、屋内外における各種展示効果を高めるものとする。
- 行催事を通じた来場者との双方向のコミュニケーションの創出の視点を持ち、公式行事、特別行事、一般催事など必要な行催事を組み込む。

(1) メッセージ性

- ・ 日本の自然観や、文化、「持続性」、「well-being」に対する理解の後押し
- ・ 来場者の心に残り、行動変容を促す行催事の計画

(2) エンターテインメント性

- ・ 誰にとっても楽しくわかりやすい内容となるよう、感性に訴え、感動や共感へとつなげる

(3) 参加性

- ・ 多様な価値観の交流や新たなつながりの促進を目指し、参加者と参加分野の拡大に寄与

(4) 話題性

- ・ 来場促進やリピート来場にも寄与するよう、人に伝えたい行催事の計画

(5) 季節性

- ・ 日本の気候風土と関連する行事や祭礼
- ・ 植物や作物などによる季節感の醸成